

検証 JR革マル浸透と組織私物化の実態！

民主化闘争情報[号外] 2009年8月26日 発行 日本鉄道労働組合連合会(JR連合)【No. 42】

JR経営幹部は脅しに屈せず革マルを排除せよ！

西岡研介著「マングローブ」では、前号で紹介したプロパンガスの事件や赤ちゃんの置き去り事件について、「あるJR東日本取締役」とした被害者は元社長の松田昌士氏（現相談役）であると明かした。そして「松田さんは、これらの犯行を『革マル派の仕業』と思ひ込み、彼らに対する恐怖をますます募らせていったのです。そしてこの頃から松田さんは自ら、松崎やJR東労組に擦り寄っていったのです」とのJR東日本関係者の話を紹介している（154 ページ）。松田氏は2008年11月、日経新聞「私の履歴書」に登場したが、29日の第28号で、組合問題を巡る家族への嫌がらせについて、以下の通り述べている。

国鉄時代、私は常に主力組合であった国鉄労働組合(国労)と真つ向から対峙した。分割・民営化の信念を掲げ、これを曲げることもなかった。当然、私への風当たりはきつくなり、それは家族にも及んでいた。-(中略)- 国鉄民営化への道筋がたったころからJR発足にかけては特にひどかった。当時住んでいた埼玉県与野の自宅ではプロパンガスの周辺に幾本ものマッチ棒がばらまかれていた。-(中略)- ある時、同居している長女の息子が極端に水を怖がることを知った。理由を尋ねると、近隣のプールで指導員とおぼしき人物に無理やり顔を水に押し付けられたという。孫にまでの陰気ないじめにはさすがに慄然とした。

松田氏は、さぞかし勇気を持ってこの事実を明かしたことと思う。このような卑劣極まりない蛮行は、絶対に許されることではない。

JR東日本松田相談役への嫌がらせの犯人は革マル派ではないのか？

ところで「私の履歴書」の文脈では、陰湿な嫌がらせの犯人は国労関係者であるかのように読める。一方「マングローブ」では、松田氏は「犯行を『革マル派の仕業』と思ひ込み」とある。同書には、さらに、1991年以降、JR総連が大分裂してJR連合が誕生する経過で、東労組松崎元会長がJR東海の葛西副社長（当時）に対し、91年7月のJR総連青年部の大会で、「言っておく。君と闘う。堂々と闘う。そして、必ず勝つ。そのことを今、宣言しておく」と宣戦布告し、その後、同氏の個人攻撃やJR東海批判を掲載した出所不明の「JR東海新聞」なる怪文書が大量に配布されたり、信州大の講演に招かれた同氏が学生風の男性3、4人から生卵やペンキを浴びせられるなど、奇怪な事件が連続して発生したことを紹介している（165 ページ）。これらの経過から考えると、松田氏への陰湿な嫌がらせについても、革マル派の関与を疑わざるを得ない。同氏は革マル派への恐怖心から、敢えて事件は国労関係者らの仕業かのように記述したのではないかと、とも思えてくる。

革マル派の仕業かどうかは別にしても、こうした家族も巻き込んだ陰湿な嫌がらせが経営陣に恐怖心を与え、労政転換の障害になってきたことは間違いない。このほかJR連合や国労などJR総連と対立する組織や、JR革マル問題を追及する作家などに対し、革マル派の非公然部隊は、家宅侵入や盗難、盗聴などの不法行為を働いてきた。この中には、逮捕された活動家もいる。組織に都合の悪い者に対し、本人や家族をいじめたり、弱みにつけ込んだりする卑劣な行為を絶対に許してはならない。JRからの革マル派の排除のために、脅しや嫌がらせに屈することなく、JR経営陣は毅然たる姿勢を貫いて欲しい。

「検証・JR革マル浸透と組織私物化の実態！」はJR連合ホームページに掲載中！ <http://homepage1.nifty.com/JR-RENGO>